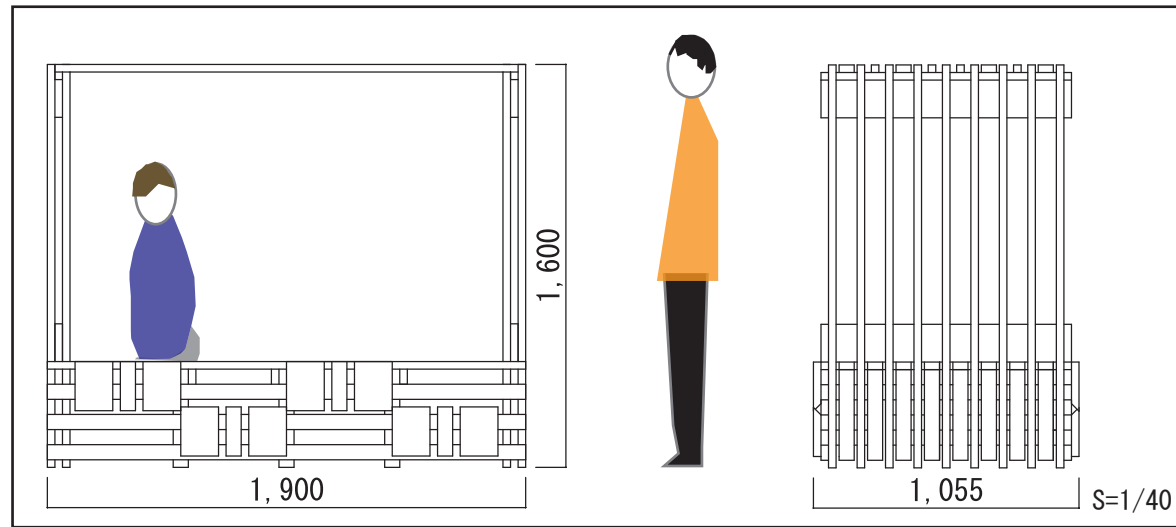
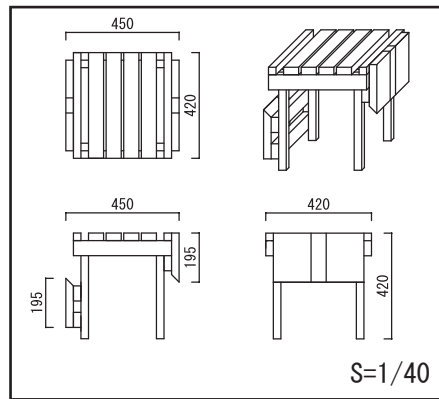


# あつまるまの活用

あつまるまは、8個のイスと1個のハコからなる杉の間伐材による製作物である。45度にカットされた引っ掛かりによって、イスとイス、イスとハコの水平方向の自由な接続を可能にし、イスにおいては、座面に脚の幅の隙間を設けており、座面を汚すことなく、垂直方向への接続ができる。

イス：8ユニット（左下）  
ハコ：1ユニット（右）



▲ 実際の組み立ての様子

あつまるまは、あらゆる場面に  
対応するため、また誰もが簡単  
に組み替えられるよう、ボルト  
などはいらず細かな寸法調整に  
よって設計されているが、使用  
材は30×30, 30×60, 30×150の  
3種類のみで構成されている。

ハコの組み立て…ボルトを使わず、垂直方向のみで接続している



▲ 各パーツの分解図    ➤ ▲ 壁面パーツの接続    ➤ ▲ 屋根パーツの接続



▲ イスの縦接続    ▲ イスの横接続



## 二畳空間

イスとハコをすべて水平に  
組み合わせた形。茶室的な  
場として機能する。風景を  
楽しみながら談笑したり、  
寝転んだりと使用者によっ  
て自由な使い方ができる。



## 食事の間

垂直方向にイスを二つ組み  
合わせてそれをハコに接続  
した形。最大4人分の机と  
なる。片側に配置し一列の  
テーブルにしたり、四隅に  
配置して、個人用の食事ス  
ペースを作ることもできる。



## ライブ

ハコの周りにイスを分散さ  
せて配置。ハコに演奏者が、  
イス側に観客が座る。この  
形以外にもハコとイスの位  
置関係によって、その場に  
応じた多種多様な間の形成  
を想定している。



## 機動性

あつまるまは機動性におい  
ても優れている。ハコを逆  
さにするとそこに、8個の  
イスをすべて収納できる。  
ハコの寸法は、全国への移  
動のことを考え軽トラック  
の荷台に収まるように、設  
計している。



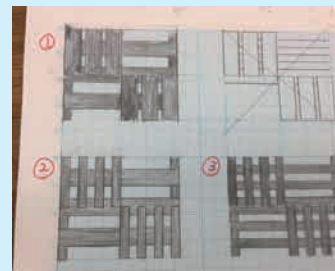
## 現地調査



## ミーティング



## 現地プレゼン



▲ 地域散策の様子    ▲ 地域の方々への聞き込みの様子  
あつまるまの製作は、ヒアリング調査から始まった。中山間  
地域の方々の生活の様子やいただいた意見から、「この地域に  
必要なものは一体何なのか」を考えていった。

▲ 学生によるミーティングの様子    ▲ 2種類のベンチの組み合わせ、初期案  
模型作りを何度も繰り返しながら、ミーティングを重ねていっ  
た。過疎化の進む地域であるため、大人も子供も楽しめる、  
人が集まり交流できる空間を主として計画を進めていった。

▲ イスのデザイン検討    ▲ 完成系と違い軸の方向が異なる  
現地プレゼンは2回行った。写真はともに第2回プレゼンの  
検討段階である。定期的に地域の方々に製作物を説明して意  
見をいただき、それらをブラッシュアップしていった。

▲ スライドソーを用いての製作の様子    ▲ 約一週間の製作の末、完成  
現地で製作合宿を行った。作  
業の合間に、地域の方々と交  
流し、製作意欲が高まった。